

**仲間づくり活動を通して地域に貢献できる児童生徒の育成
—小中連携の実践を通して—
豊田市立稲武中学校
〈連携校：稲武小学校〉**

1 実践のねらい

- (1) 稲武っ子同士や地域とのつながりを図ることで、地域を大事にしていこうという気持ちを高める。
- (2) 小中学生の代表者が話し合う仲間づくりサミットの場をもつことで、地域の活動に関わることへの目的意識を高める。
- (3) 「いなブリッジ」(小中連携)の取組を進めることで、関わり合いと学び合いの意識を育む。

2 実践の内容

(1) 「いなブリッジサミット」の開催

6月15日(水)に、稲武小学校の児童会役員4名と稲武中学校の生徒会役員3名が活動内容について話し合いをした。前年度までは、小中連携活動を「いなブリッジ」と称して地域の行事に参加したり、地域を元気にしようと合唱を披露したりして、地域を愛する心を育んできた。今年度は、サミットを開催し、事前に各校で前年度の取組の反省を集約し改善点を考え、その意見を持ち寄っての話し合いをした。児童生徒の意見が盛り込まれた活動内容で、目的意識が明確になり、主体的な活動につながった。



【「いなブリッジサミット」の様子】

(2) 「いなブリッジ」—稲武っ子同士のつながりを図る活動—

ア 部活動指導による交流

中学生が小学生にミニバスケット(2回)と陸上競技(2回)の指導をした。中学生が部活動で得た技術を小学生にお手本を見せながら分かりやすく教え、中学生と小学生の信頼関係が深まったことで一体感が生まれた。大会当日は、応援に駆けつけた保護者に練習の成果を見せ、多くの児童が自己記録を更新することができた。

イ 英語・外国語活動の授業交流

小学6年生が中学校に来校して授業交流をした(2回)。中学校に入学してから英語学習にスムーズに入れるように毎年実施している。今年度は11月に行われる稲武「ふれあい祭り」での合唱曲の一つとして、英語の歌詞が入った歌を披露するため、事前にCDを聴いて曲を選び、中学生がリードしながら合同練習を重ねた。

ウ 「いなブリッジ」のTシャツづくり

中学生はブルー、小学生はグリーンのTシャツを着て、地域の行事に参加した。Tシャツの色を決めたり、胸と背中上部に付けるエンブレムをデザインしたりする作業は、「いなブリッジ」をイメージして小・中学生から意見を募集して進めた。自分たちでデザインしたエンブレムをアイロンプリントで協力しながらTシャツに貼り付けた子供たちは、完成したTシャツをうれしそうにあてがい、「チームっぽくなった」「早くみんなを着て、地域の人に見せたい」と、活動への意欲を高めた。



【協力してエンブレムを付ける小中学生】

(3) 「いなブリッジ」ー地域との交流を図る活動ー

ア 民生委員の事業への参加

9月に「ひまわり懇談会（一人暮らしのお年寄りとの交流会）」を行い、中学1年生と小学4・6年生が参加した。事前に民生委員の代表の方と活動内容や日程の調整をした。当日は小学生が昼食の五平餅を焼く手伝いをしたり、劇やゲームをしたりしてお年寄りに楽しんでいただいた。また、中学生は合唱を披露したり、バルーンで一緒に犬を作ったりした。前年度の活動で「お年寄りとの話題に困った」という意見が子供たちから出されたことを受けて、今回こうした工夫を凝らした。活動を工夫したことで、楽しく交流でき、お年寄りの方に大いに喜んでいただけた。



【バルーンアートを説明する中学生】

イ ふれあい祭りへの参加

11月に行われた稲武「ふれあい祭り」に参加した。美術作品の展示をしたり、中学生と小学校5・6年生が合唱をしたりして、地域の方に小・中学生の元気な姿を披露した。事前に祭りの担当者から小・中学生への要望を中学生が聞き、目的を確認した。合同練習では、表情、歌い方や振り付けを中学生が小学生に熱心に教え、地域を元気にしたい、地域の役に立ちたい、という中学生の思いを小学生に伝えた。また、中学生はボランティアとして多数参加して行事を盛り上げ、地域の一員としての自覚を高めることができた。



【合唱曲を披露する様子】

ウ 観光協会と連携し稲武のよさをPRする「合唱LIVE」

稲武地域の活性化を目指し、道の駅「どんぐりの里いなぶ」や「大井平公園のもみじ祭」で、中学生が稲武をPRする資料を訪れた人に配布したり、合唱LIVEを行った。合唱の間には、自分たちが住む稲武に関するクイズやコントを披露することで、中学生の明るいエネルギーを地域外の方に知ってもらい、稲武に立ち寄った方へのPRの場とした。合唱を聴いてくださる観客の笑顔を見て、自分たちの活動の成果を目に見える形で実感でき、地域活性化のために活動することができたという生徒たちの満足感につながった。また、励ましの言葉やお褒めの手紙を頂いたことも、生徒の社会参画意識や地域愛が育つ大きな力となった。



【合唱LIVEの様子】

3 実践の成果や課題

- ・ 主体的な取組意識が芽生えたことで子供たちが地域に目を向け、地域を大事にしていこうという地域愛が大きく育った。
- ・ 過疎化が進む稲武地区では、小中学生に期待する地域の声も大きい。その期待に応えるべく子供たちは、日々の生活の中での気づきを大切に、迅速に改善案を出し、地域と連携した取組を続ける中で社会参画意識を高めることができた。
- ・ 今後は、地域の方と教師が、未来をいきいきと生きる姿をイメージして「目指す成人像」を定め、子供たちを支援していきたい。そして、地域愛をもった子供たちが地域に働き掛け、地域の一員としての役割が果たせるように、小中連携をより深められるようにしていきたい。